

複合的な機能をもったコミュニティ施設で各種イベントを開催し、来街者の増に貢献

(株)まちづくりとやま

機関名	(株)まちづくりとやま		
所在地	富山県富山市総曲輪2-1-3		
電話番号	076-495-5900		
地域概要	(1)管内人口 421千人	(2)管内商店街数 7商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 7商店街	(2)会員数 435商店	
	(3)空店舗率 -%	(4)大型店空き店舗数 2店	
	中央通商店街振興組合ほか6商店街		
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（複合施設）

・交流サロン、キッズコーナーの開設・運営

総事業費

11,175千円

【事業実施内容】

1. 背景

富山市は、富山平野のほぼ中央に位置し、行政・文化・経済の中核機能を有する富山県の県都である。平成8年に中核市に指定され、平成17年4月に近隣6町村と合併し、新しい富山市として出発した。

富山市の中心市街地では、郊外化の進展により定住人口の減少と商業力の相対的競争力の低下が進んでおり、商店街の人通りが年々減少し、中心市街地としての賑わいや活気が失われつつある状況にある。

このような状況を受け、本事業は、商店街内にコミュニティ施設を整備することで「街」の機能の一部であるコミュニティ機能および利便機能を回復させて中心市街地の賑わいを取り戻すことを目的として商店街内にコミュニティ施設を設置・運営したものである。



富山市の位置(富山市役所 HP より)

2. 事業内容

平成 14 年度に結成された市民による「交流づくり事業グループ」の意見を取り入れ、市民がコミュニティ施設に望む機能を把握した上で、平成 15 年度にコミュニティ施設「街なかサロン」を開設した。平成 16 年度は、15 年度に引き続き「街なかサロン」の更なる活性化のための運営を行った。

(1) 施設概要

中心商店街の中で最も歩行者通行量が多く、チャレンジショップなどの創業者育成施設や商住混合のシルバーハウスなどが整備されている中央通り商店街の空き店舗（旧洋装店）を活用して設置されている。

- ・名称 「街なかサロン 樹の子」
- ・面積 1 階 214.60 m² 2 階 198.76 m²
- ・住所 富山市中央通り 1-6-6
- ・開館時間 1 階：喫茶・交流サロン 10：00～18:00
2 階：キッズコーナー 10：00～16：00
- ・定休日 毎週水曜日（祝祭日の場合は翌日）および1月1日



「街なかサロン 樹の子」の外観

施設	スペース	利用内容
1 階 交流サロン	展示コーナー 展示テーブル	高齢者の趣味活動による自作品等の展示場、富山の名産品や商店街こだわり商品等の PR の場。
	ほっとひと息コーナー	買物途中に気軽に立ち寄ってもらうスペース
	まち資料情報コーナー・街なか情報コーナー	商店街イベント情報、㈱まちづくりとやまの活動情報、商店街、㈱まちづくりとやまのHPからの情報収集の場。
	湯茶コーナー	コーヒー等の飲み物、甘味デザートを提供する場。
	いこいのスペース	囲碁・将棋などができるスペース
	会議室	㈱まちづくりとやまに組織されている「まちづくり公房」や商店街の会議。
2 階 キッズコーナー	お遊びフリースペース	絵本や遊具を設置し、親子で遊べる場。
	親子の交流サロン	子育てに関する相談や母親同士の情報交換の場。
	授乳・おむつ換えコーナー	乳児の授乳、おむつ換えのスペース。
	ミーティングコーナー	歯科衛生士や保育専門学校の先生、保育士等を講師とした子育てセミナーやイベントに利用。
	絵本コーナー	子どもに絵本を読み聞かせる場。
	子育て情報コーナー	子育てに関するセミナーやイベント等がわかるチラシ、ポスター等の展示の場。

(2) 運営体制

①実行委員会の設置

月 1 回の実行委員会を開催し、サロンの事業計画及び管理運営に関する必要な事項を協議し、委員会の承認を得て㈱まちづくりとやまが運営上の規定などを定めた。

②運営スタッフ

施設全体の管理及び 1F の交流サロンは、㈱まちづくりとやまが配置したスタッフ 4 名が曜日によって交替制で運営した。(常時 1 名配置) また、キッズコーナーに関しては、託児経験者及び一般市民のボランティアによる任意団体「樹の子キッズ」のスタッフを常時 1 名配置し運営した。なお、子どもの一時預かりの予約が入った場合は、託児経験者 1 名とボランティア 1 名で運営した。

(3) イベント活動

毎月、商店街と協力して 1 階・2 階を活用した各種イベントを開催し、多くの参加者があり、「樹の子」利用者及び来街者の増加に寄与した。

①1 階交流サロンを利用したイベント

開催時期	イベント名	イベント内容
H16. 11. 20～30	富山延命水ぐるめ店	「延命地蔵尊名水仕込商品」の展示販売
H16. 12. 18	サロン・クリスマスイベント	バルーンアート、手づくりお菓子教室、街角パフォーマンス
H17. 1. 16	お祝いぜんざい	バルーンアート、玄米入りぜんざいの振舞い(中央通商栄会協力)
H17. 2. 12～13	あったか街フェスタ	縁日&わんぱく広場、キャラクターグッズ販売
H17. 3. 12～21	ハッピー誕生祭	薬膳ケーキの提供、富山の売薬資料展示、魚津蜃気楼太鼓演奏、とやま地産・味こだわりの会出店



サロン・クリスマスイベント
(手づくりお菓子教室)



ハッピー誕生祭
(魚津蜃気楼太鼓の演奏)

②2階 キッズコーナーを利用したイベント

開催時期	イベント名	イベント内容
H16.4月	親子クレープづくり教室	親子でクレープを作る。参加費 300 円
5月	子どもファッションショー	子供服を子供モデルが着用し披露する。（子供服は商店協力）
7月	浴衣の着付け教室	ゆかたの着付けを指導（商店協力）
8月	親子のためのミニコンサート	親子でする音楽コンサート
	リサイクルバザー	家庭で不用となった子供服などのミニバザー
10月	子供の髪カット教室	子供の髪カット方法を指導（商店協力）
11月	保育の出前	保育士による遊び教室（県・社会福祉協議会協力）
12月	クリスマス・ミニ・コンサート	ピアノ、ギターによる童謡の演奏など
H17.1月	もちづくり大会	親子でもちづくり
	廃油石鹸づくり	廃油を使った石鹸づくり
2月	伝承遊び教室	お手玉、けんだま、あやとり、お雛様づくり
3月	ハッピー誕生祭	オリジナル紙風船づくり 子供達が自慢の楽器演奏を披露 ボランティアによるハーモニカ演奏会
	・紙風船に絵を描こう！	
	・子ども音楽会	
	・ハーモニカコンサート	
キッズコーナーのミニイベント		
5～6月	外反母趾対応教室	外反母趾対応について専門的に指導
6月、11月	キッズ歯磨きエステ	虫歯になりにくい歯をつくる歯磨き方法の指導
9月、3月	親子フィットネス	親子で交流しながら体操する
毎月1回	ミニ花づくり	親子で小さな鉢植えのミニ花をつくる



子どもファッションショー



ミニ花づくり

(4) 利用状況等

<利用者数>

1階交流サロンの利用者数は月平均 3,126 人で、イベントの人気により 4,000 人を超える月もあった。（年間 37,511 人）

2階キッズコーナーの利用者数は月平均 407 人であった。（年間 4,879 人）

「街なかサロン 樹の子」全体の年間利用者数は 42,390 人であった。

<利用者アンケート調査>

「街なかサロン 樹の子」利用者 142 名にアンケート調査を行った。調査結果の概要は次のとおりであった。

- ・利用者の性別は男性が約 2 割、女性が約 8 割である。
- ・年齢別では、20～30 代が約 4 割で、最も多い。これは 2 階キッズコーナーを利用する若い母親が多いことが影響している。
- ・利用者の居住地では、富山市内が 8 割強であった。
- ・商店街活性化については、「役立っている」と回答した者が過半数であった。
- ・今後「樹の子」で希望するサービスについては、「駐車場料金割引サービス」が 45%と最も多かった。

【 効 果 】

・来街者の行動

「街なかサロン 樹の子」へは、毎月 3,500 人以上が訪れており、特にこれまで来街の少なかった若い夫婦が、子供を連れて来館するようになった（来館者の約 1 割）。オープンから 1 年を経過して、1 階喫茶コーナーへの常連客も出てきている。

また、ほぼ毎日（定休日以外）、地元の農家が地産地消として朝市を開催し、生鮮食料品を買い求めるお客様で賑わっている。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. PR

オープンから 1 年を迎え、利用者アンケート調査を実施したところ、「街なかサロン 樹の子」の PR 不足が指摘された。まずは、サロン自体を知ってもらうことが大切であることを再認識した。

2. 事業費の確保

補助金によって運営している施設であることから、喫茶の料金も抑えた設定としている。今後、補助が無くなった場合のことを考慮して、喫茶コーナー等の価格設定の見直しが必要となるが、低価格に馴染んできたお客様に納得される設定が必要である。またサロンを維持していく事業費の確保が必要であり、新規に収益事業を考える必要がある。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

1. コミュニティ施設の設置は、空き店舗対策も必要であるが、高齢者や子供づれの若夫婦などが来やすい場所での設置を考慮することが必要。（歩いて来られる、バスで来られる、自転車で行かれる等）
2. 地産地消として生鮮食料品を扱う朝市の設置は、賑わいづくりに有効。

【 関 連 U R L 】

(株)まちづくりとやま <http://www.tmo-toyama.com/>